

- 1 題材名 せいかつの中にある音を楽しもう（6時間）
 教材名 表現（音楽づくり、歌唱）「なきごえをつかってあそぼう」「虫のこえ」

2 題材について

《学習指導要領との関わり》

A表現 (1) 歌唱 ア、イ、ウ(ア)(イ)
 (3) 音楽づくり ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、ウ(ア)(イ)

〔共通事項〕 (1) ア 音色、旋律、強弱、反復
 ・思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素:音色

(1) 題材観

本題材では、身の回りの音の音色の面白さを感じ取る活動を通して、音や声の特徴について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気づき、自分の声を工夫して音楽をつくったり、歌ったりすることをねらいとしている。ここでは、身の回りの様々な音に気づき、その音を自分なりに捉えて声で表現し、その声を使って音楽をつくる学習を展開する。こうした学習を通して、音への意識を高め、思いをもって音楽表現を工夫する子供の姿を目指したい。

(2) 指導観

＜教材について＞

私たちの生活において、音はとても身近なものであるといえる。その中でも動物の鳴き声に着目し、同じ動物でも音の高低や強弱、長さ（伸び）など多様な鳴き声があることに気付くことで、身近な音への興味関心を高めるとともに、声の出し方に気を付けて豊かに音楽表現する姿を目指したい。また、グループで音楽づくりの活動をすることで、音の重なりなど、個人では体験できない音楽の面白さを味わわせたい。その際、自分の声の出し方や友達との音の重なりなどをどのように工夫して表現したのか意識することができるように、音の高低や強弱、反復など、ポイントとなる言葉を掲示しておく。

＜研究の視点との関わり＞

【視点1】〔共通事項〕を支えにした、9年間の学びの連続性を考えた授業づくり

①学び方の共有

○モデルプランとの関わりについて

今年度のモデルプランでは、音色を手掛かりにして、思いや意図をもって音楽をつくる力に重点を置いている。本題材では、2年生の実態を考慮して、音の高低や強弱に着目して声の出し方に気を付けることで、音色を意識できるようにしていく。さらに、音楽づくりの経験を生かして、歌詞の内容や自分の思いに合った声の出し方に気を付けて歌唱表現を工夫する力を身に付けるように題材を構成している。同様に、4年生、中学1年生の題材でも、音楽づくり・創作の学習で学んだことを、他領域の学習と関わらせて学びを深めていく、学び方の共有を図りたい。

②既習を生かして学びを深める授業づくり

本題材では、身の回りの音の音色の面白さを感じ取りながら、声の特徴について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気づき、自分の声を工夫して音楽をつくったり、歌ったりする。1年生の「みのまわりのおとにみみをすまそう」の学習では、身の回りで鳴っている様々な音の面白さを感じ取りながら、音の長さや強さなどの特徴に気づき、学校の中で聴こえる音に耳を澄ませて声で表現した。今回の学習ではさらに、どのように表現するともっと面白い音楽になるかを考えながら、音の高低や強弱を工夫して表現する。音の高低や強弱が変わると、音楽の感じが変わることに関心し、歌唱や器楽の学習においても、曲の感じや歌詞に合った音色を意識して音楽表現を工夫する児童の姿を目指していきたい。4年生の「いろいろな音のひびきを楽しもう」の学習では、打楽器の音色や音の組み合わせの面白さを感じ取りながら、打楽器の材質による音色の特徴について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気づき、音の響きや組み合わせを工夫して音楽をつくったり、

演奏したりする。中学1年生の「構成を工夫して、3つの場面から音楽をつくろう」の学習では、身の回りの音や声、楽器の音色や音の組み合わせの面白さを感じ取りながら、音素材の特徴と表したいイメージとの関わりについて理解し、音の響きや構成を工夫しながら音楽をつくる学習へとつながっていく。

【視点2】主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

②個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

声の出し方を工夫するための個別最適な学びと協働的な学びについて

個別最適な学びとして・自分の気に入った動物を選んで、鳴き声の表現を工夫する。

- ・イメージを膨らませて自分が気に入った鳴き声の表現を工夫する。

→タブレットで調べる・想像する・観察する。

→工夫のポイント（音の長さ、音の高低、強弱）に着目させる常時活動

- ・自己のふりかえりとして

→タブレットに録画して確かめる・友達に聴いてもらう。

協働的な学びとして・同じ動物を選んだ児童でグループを作り、1つ鳴き声を決める。

→声の出し方の違いに着目させる。

- ・友達の鳴き声の表現の面白さを知り、自分の表現に生かす。

→音色（強弱、音の高低）に着目するとよいことを知る。

→着目した工夫のポイント（強弱、音の高低）を自分でも試し、より気に入った鳴き声の表現になるように工夫する。

- ・お題が書かれているカルタをめくって、即興で表現する。

- ・友達と鳴き声でお話することで、友達の鳴き声との組合せ方から、自分の鳴き声の表現を工夫する。

- ・「虫のこえ」の歌唱の際に、自分の声の音色を工夫することにつなげていく。

【視点3】評価の在り方

本時では、動物の鳴き声の表現を工夫してお話している様子をギガタブで録画、それを視聴しながら意見交換し、自分の気に入った鳴き声の表現になるよう工夫をしていく。その活動をしている様子を教師が観察したり、発言を記録したりして自分の気に入った鳴き声になるように音の高低や強弱を工夫している姿や児童の思いを見取るようにする。

3 題材の目標

- (1) 曲想と音色の音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わり、身の回りの様々な音の特徴や音のつなげ方の特徴について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能や、音楽づくりの技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 音色、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかやどのように音を音楽にしていくかについて思いをもつ。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 身の回りにある音や、擬声語を使った音楽に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や音楽づくりの学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

4 評価規準 ※評価略記号 知識・技能 知 技 知技

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 知 身の回りで聴こえる鳴き声の特徴について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付いている。 ② 技 発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に音を選んだりつなげたりして表現する技能を身に付けて音楽をつくっている。 ③ 知 音のつなげ方の特徴について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付いている。 ④ 技 思いに合った表現をするために必要な、反復などの音楽の仕組みを用いて、簡単な音楽をつくる機能を身に付けて音楽をつくっている。 ⑤ 知 曲想と音色などの音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付いている。 ⑥ 技 思いに合った表現をするに必要な、自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能を身に付けて歌っている。	① 音色を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考え、声遊びを通して、音楽づくりの発想を得ている。 ② 音色、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように音を音楽にしていくなかについて思いをもっている。 ③ 音色を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。	① 身の回りにある音や、擬声語を使った音楽に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。

5 題材の指導計画及び評価計画（6時間扱い）（本時2/6）

次	時配	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素 (音符、休符、記号や用語)〕	○教師の働きかけ ・目指す児童の姿 【視点】	評価規準 (評価方法)		
				知技	思	態
◎自分たちの身の周りに聴こえる鳴き声に関心を向け、見付けた鳴き声を声で表すとともに、擬声語を使った音楽づくりを楽しむ。				②① [技][知] (演奏聴取、発言)	↓ ① (発言、観察)	
第一次	第1時	○いろいろな動物の鳴き声を声で表現して楽しむ。 ・動物の鳴き声で声遊びをしたり二人組で動物の鳴き声で掛け合いをしたりする。 ☆〔音色〕	○音色や音の高低、強弱などキーワードとなる言葉を黒板に掲示する。 【視点1 ②】 ・声遊びを通して、いろいろな声を出す面白さに気付いている。			
	第2時 (本時)	○3人組で動物の鳴き声でお話をする。 ・3人組で鳴き声を使ってお話したことを録画・視聴して、自分の気に入った鳴き声になるように工夫する。 ☆〔音色〕	○児童の活動している様子を観察して工夫を取り上げ、紹介し、ポイントとなる言葉を掲示する。 【視点2 ②】 【視点3】 ・自分の気に入った鳴き声になるように音の高低や強弱を工夫している。			
	第3時	○3人組で音楽の仕組みを意識しながら鳴き声の音楽をつくる。 ・各グループで役割を決めて、音楽をつくる。 ☆〔音色、反復〕	○音楽の仕組みを用いて鳴き声の音楽をつくれるように、音楽の仕組みを使って表現できるような型を提示する。 【視点3】 ・音楽の仕組みを使って、自分たちの気に入った鳴き声の音楽になるように考えている。			
	第4時	○各グループがつくった鳴き声の音楽の工夫を知る。 ・各グループの鳴き声を使ったお話を聴き合う。 ☆〔音色、反復〕	○それぞれのグループの工夫を感じ取れるように、自分のグループと違うところを探すよう伝える。 【視点3】 ・音楽の仕組みを使って、自分たちの気に入った鳴き声の音楽をついている。			
◎「虫のこえ」の歌詞にある虫の声に置き換えて表現し、その感じを生かして声の出し方に気を付けて歌う。				⑥⑤ [技][知] (演奏聴取、発言)	↓	
第二次	第5時	○虫の鳴き声の感じが出るように曲想を感じ取って歌う。 ・歌詞を音読する。 ・教科書の写真を見ながら、それぞれの虫がどんな声で鳴くのかを知る。 ☆〔音色〕	○情景を想像できるように、言葉を大切に音読するように助言する。 【視点1 ①】 ・曲想と歌詞の表す情景や気持ちについて気付いている。			
	第6時	○虫の鳴き声や気持ちを表す言葉を工夫して歌う。 ・本物の虫の鳴き声を聴く。 ☆〔音色、旋律〕	○イメージをつかむために本物の虫の鳴き声を聴かせて、真似したり歌い試したりするように声をかける。 【視点1 ②】 ・擬声語や旋律を生かした歌い方を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。	↓	③ (演奏聴取、発言、行動観察)	↓ ① (演奏聴取、発言、行動)

6 本時の指導（2/6）

（1）本時の目標

音の高低や強弱を工夫して鳴き声で表現し、音楽づくりの発想を得る。

（2）本時の展開

学習内容 ・ 学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素 (音符、休符、記号や用語)〕	○教師の働きかけ・目指す児童の姿 ◇評価規準〈評価方法〉 【視点】
1 常時活動を行う。 ・「ドレミのうた」を歌う。 ・体を動かしながら、動物の鳴き声で話す。 (前時に決めた自分の動物、鳴き声で) 2 本時の目標を知る。	○音の高低に着目するために、掲示物を活用し示す。 ○強弱に着目するために、声の強い児童と弱い児童を取り上げて紹介する。
なき声をくふうして、おしゃべりしよう。	
3 自分の動物の鳴き声を紹介する。 ・グループで、自分の鳴き声を紹介し、まねし合う。 【予想される鳴き声】 ・高い声で ・低い声で ・強い声で ・弱い声で 4 3人で動物の鳴き声でお話をする。 ・カルタをめくって、カルタに書かれたお題に合った音の高低や強弱を工夫する。 (2教室で展開する。) 【お題の例】 ・言い争っている ・盛り上がっている ・ささやいている 【予想される児童の発言】 ・言い争っているから強くしてみよう。 ・ささやいているからそっとしてみよう。	○何人かの児童を取り上げ、聴き比べることで、音の高低や強弱を工夫するとよいことを確認する。 ○友達の鳴き声をまねしながら、音の高低や強弱を変化させて、試すよう伝える。 ○一人では恥ずかしく、声を出せない児童には、友達と一緒に鳴き声をまねするように声をかける。 ○音の高低や強弱を工夫しているグループを取り上げ紹介する。 ○他のグループのよいところをまねして、試してみよう声かけする。 ○どんな声の出し方をしたのか問いかけ、同じ強さや同じ高さでも声の出し方によって音色が変わることに触れる。 ・音の高低や強弱を工夫しながらお題にあった動物の鳴き声でお話をしている。
5 グループでお題を一つ選び、自分たちの鳴き声を視聴する。 ・お話を録画する。 ・録画したものを視聴し、声の出し方に気を付けて音の高低や強弱を工夫できているか確認する。 ☆〔音色〕	○声の出し方に気を付けて、音の高低や強弱を工夫できているか確認するように伝える。 ○音の高低や強弱の工夫ができていなかった場合は、撮り直してよいことを伝える。 ・お話を録画・視聴し、音の高低や強弱を表現できているか確認している。 【視点2②】
◇音色を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったこととの関わりについて考え、声遊びを通して、音楽づくりの発想を得ている。 (思考・判断・表現) 〈発言・観察〉 【視点3】	

6 お話を発表する。	○声の出し方に気を付けて、音の高低や強弱を工夫しているグループを取り上げ、紹介する。
7 次時の見通しをもつ。	